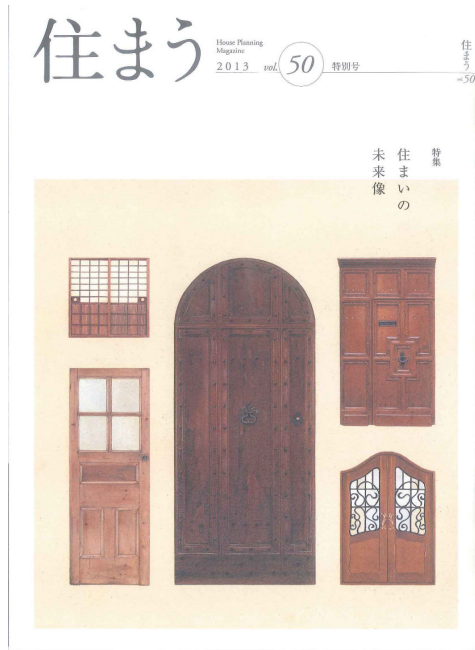
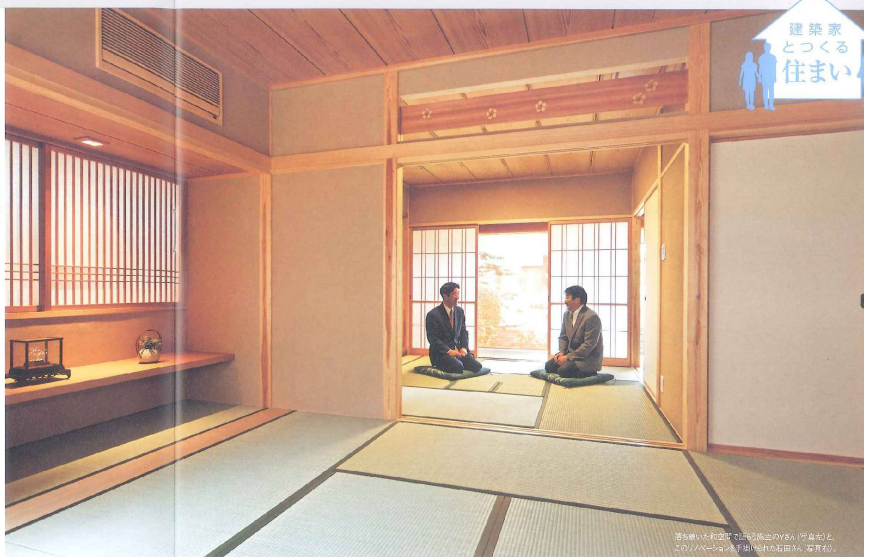




大阪ガス 「住まう」誌 2013 vol.50 特別号
“Y邸・納屋から茶室のある離れへ” 掲載頂きました。



柔らかな土佐ツガを使った水まわりの廊下部分は、足触りも優しいものに。



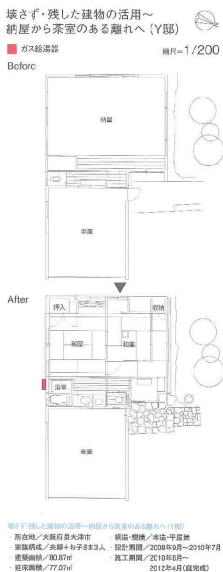
壊さずに残すこと、それも環境に
やさしい住まいづくりですね。

壊さず・残した建物の活用～納屋から茶室のある離れへ (Y邸)
株式会社エーアンドシー設計 石田俊二郎さん

6代以上続く旧家の
納屋をリノベーション

[illegible]

美しい日本庭園は、船れと一緒に設計されたそう。



石田さん「この枝があつたらこそ、こころのものをいかに出したらよいかの楽しみを浮かべます。吉野杉を使う人間には、指輪の細や花山形が格別、茶室の床の間は杉材、檜など、水まわりの廊下には柔らかな色を使う方が、木材の適所に杉材が使用し、天然素材の魅力を匠の技を凝縮したものと云つていい。設計が完成まで3年かかると、今回の「アトリエ」コンペで、完成まで時間ばかり過ぎた。出来たら、Yさんの美しさでこそ満足したい。出来たらYさんはついでに、また奥さまの「アトリエ」をお

伝統の技を後世に伝承するために

「古い家は、壊して建て替えた方が、コストを抑えることができます。でも、何故こういうことをやるか？ 再生しない、リサイクルしない、リノベーションを怠る、職人の技術も重要で、あると奇麗で、くさくさしたものが出来てしまう。職人の技術は、後世に引き継承するためにも、この仕事に携わって幸運で生きている家は、石田さん、これからも100年生きたる家を目指して欲しい」と、富田田さんの住む1つは「豊水」という古民家を異色化していくものとなることでした。



茶室のある和室。雪見障子越しに庭を眺めることができます。



庭を望む縁側。建具のひとつひとつも職人の
手によるものがとめ。

伝統の意匠を残す＝技能（人）を残すこと・・・環境に優しいことに通ずる思いです。

「住まう」はお近くの大阪ガス営業所で入手可能です。ご希望があれば当社にお申し出下さい。

Y邸は2012大阪ガス住宅設計アワードで“特別賞”を受賞しました。